

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

園長管理の基、個人情報に関する重要書類、緊急連絡表、記録などで職員が使用するパソコンやタブレットなどの端末類など、個人が特定できるような情報や記録などは鍵のかかる場所にて保管管理していた。また、園内研修の計画に組み入れ個人情報、法令順守の研修を職員に実施している。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

入園時、保護者等の懇談会実施の際には必要に応じた説明を行っている。また、園日より、ホームページなどでも情報発信を行っている。その他、意見箱の設置。苦情などの受付、解決の窓口の周知については園内にて掲示案内をしている。保護者からのご意見等は、園長、主幹、副主任と共有した後、全職員に周知し、適切な対応している。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

ICTシステムを活用し、家庭からの子どもの健康に関する情報提供と合わせ、子どもの健康観察を行っていた。園内は清潔に保たれ、子どもが使用する玩具や物に関して、定期的な消毒がされている。また、衛生委員を中心に職員へ発信し、感染症マニュアルを把握することで自身が感染源にならないことや、保育室に消毒液を設置するなどして感染予防に努めていた。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

年間計画に、いつ、何をなすべきか子どもの安全確保に必要な取り組みを盛り込み実践的な訓練や研修の実施をしている。リスクの高い場面(午睡、食事、水遊び、園外活動)、緊急的な対応が必要な場面(災害、不審者侵入)など、資料を基に留意点を改めて確認し、マニュアルの見直しなどを行っている。防災・危機管理委員会を中心に、振り返りを大切に、対策後の状況を把握し、再発防止に務めている。事故発生防止に向けた環境づくりには職員間のコミュニケーション、情報共有、事故予防のための実践的な研修を行うなど組織的に取り組んでいる。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

認定こども園の認定基準により国から示された職員配置を満たしている。職員のシフト管理、日々の職員配置に関しては主幹保育教諭が状況に応じ欠員が出ないように丁寧に適正配置を組み、職員の休みを保証しつつ最善に行われている。設備に関しては、点検が行われ、子どもが安全に使用できるよう管理されている。園舎が23年ほど経ち、急な修繕が増えている。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

園内外の環境美化および清潔保持に努め、子どもが安心して過ごせる環境が整えられている。共用部分は整理整頓が心がけられ、掲示物は見やすく整えられていた。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

子どもの発達段階に応じた環境構成を行い、安心して主体的に遊び込める保育室づくりに努めている。製作物や壁面飾り等、むやみに飾ることなく、家庭的な温かい雰囲気創られていた。年齢や個々の発達差を踏まえ、無理のない生活動線や遊びのスペースを確保している。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをするを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・ あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5歳児

- ・ 一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・ 共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

年間計画に基づき作成された月案や日案より、子どもの興味や関心、その時々を姿を取り入れ内容を計画していた。乳児期から幼児期にかけて育まれていくキリスト教保育の保育者の思いや歳児で大切にしたい事柄について記載されており、職員間での話し合いが行われていると感じた。年齢発達に合わせ、大切なポイントをおさえ関わる姿が様々な場面で見られた。

【全体を通して】

子どもたちの気持ちを大切にしながら、遊びを中心とした保育が実践されている。園庭、ホール等では、園全体で全園児を見守る雰囲気があり、自然に異年齢交流が展開されていた。一人ひとりのペースを尊重し、できた喜びや挑戦する姿を温かく見守る関りが積み重ねられていることも感じた。集団においても個を尊重する姿勢が見られ安心して自己表現できる環境づくりが行われている。わかばで育った園長、W主幹が3人で話し合いを重ね、わかばの良さを大切にしながら、課題に向き合っている。職員体制を見直し、副主任は園全体、クラスリーダーは専門リーダーから選出をし、若手職員の育成に力を入れている。役割があることで、職員のモチベーションにも繋がっていることが面談からも伝わってきた。今後も子どもの立場に立った保育、子どもの姿を丁寧に捉えた保育実践を期待する。